

千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第42週 (10/18-10/24) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		42週	41週	40週	39週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	16	16	16	16
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	26	26	26	26
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	10/18-10/24	10/11-10/17	10/4-10/10	9/27-10/3	10/11-10/17
			42週	41週	40週	39週	41週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	4
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.03
	咽頭結膜熱		0	0	0	0	3
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	8	13	7	58
			0.13	0.50	0.81	0.44	0.45
	感染性胃腸炎		29	27	23	27	216
			1.81	1.69	1.44	1.69	1.69
	水痘		0	0	1	0	11
			0.00	0.00	0.06	0.00	0.09
インフル	手足口病		0	0	2	2	9
			0.00	0.00	0.13	0.13	0.07
	伝染性紅斑		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	突発性発しん	↓	13	15	10	6	42
			0.81	0.94	0.63	0.38	0.33
	ヘルパンギーナ		0	3	1	0	26
			0.00	0.19	0.06	0.00	0.20
	流行性耳下腺炎		0	1	0	0	10
			0.00	0.06	0.00	0.00	0.08
眼科	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
基幹定点	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流行性角結膜炎		0	0	2	0	10
			0.00	0.00	0.40	0.00	0.30
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
基幹定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(20件)

※新型コロナウイルス感染症13件は件数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	60歳代	病原体の分離・同定、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	男性	70歳代	病原体等の検出等	梅毒	男性	50歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体の分離・同定等	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代～90歳代	病原体遺伝子の検出等
結核	女性	80歳代	病原体遺伝子の検出	—	—	—	—
レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗原の検出				

・第42週は、結核4件(115)、レジオネラ症1件(7)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(15)、梅毒1件(38)、新型コロナウイルス感染症13件(16,326)の発生届があった。

※ ()内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第42週のコメント

<突発性発しん>

前週より減少したが、過去10年の同時期と比べると多い。区別の発生状況は、稲毛区(3.00)で最多で、同区の1歳で多く発生報告があった。

■ トピック ■

<レジオネラ症>

2021年第41週現在の全国レベルの届出累積数は1,616例で、過去10年の同時期と比べると2019年の1,871例、2018年の1,713例に次いで多くなっています。都道府県別の届出累積数は、東京都が116例と最も多く、次いで大阪府106例、愛知県93例の順となっています。千葉県の届出累積数は64例で、全国で7番目に多くなっています。

千葉市では第42週に1例の発生届があり、2021年の届出累積数は7例となりました。過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています(図1及び図2)

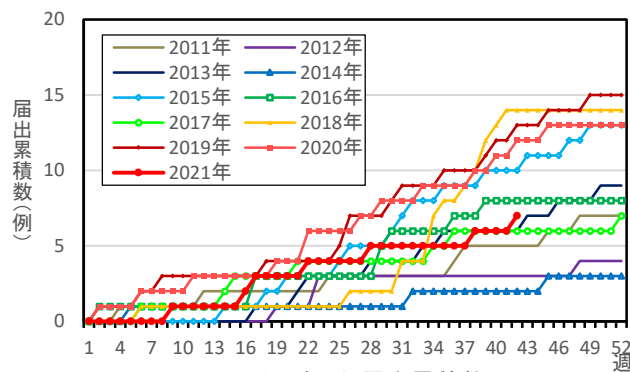


図1 年別・届出累積数
(2011年第1週-2021年第42週)

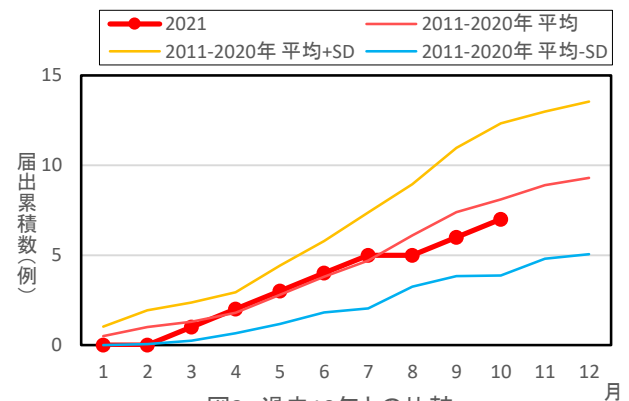


図2 過去10年との比較
(千葉市:月別 2021年第42週現在)

2011年第1週から2021年第42週までに100例(男性87例、女性13例)の発生届がありました。患者は50歳代以上の男性に多く、全体の平均年齢は67.9歳(男性66.6歳、女性76.6歳)であり、50歳代以上の者が96%を占めています(図3)。

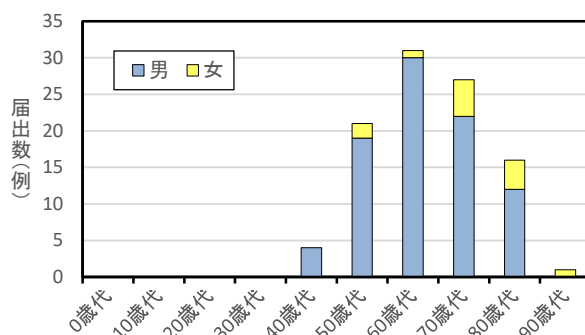


図3 性別・年齢階級別
(2011年第1週-2021年第42週 n=100)

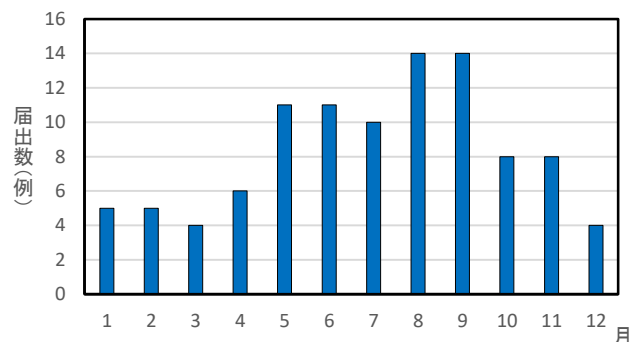


図4 月別の届出数(年齢階級別)
(2011年第1週-2021年第42週 n=100)

月別では5月から9月が10例以上で他の月に比べて多くなっています(図4)。病型については、肺炎型(95%)、ポンティアック熱型(4%)、無症状病原体保有者(1%)となっています。届出時の症状は、発熱(88%)、咳嗽(33%)、肺炎(84%)、呼吸困難(33%)、意識障害(17%)、下痢(6%)、腹痛(2%)、多臓器不全(15%)でした。感染原因・感染経路(推定)が記載されているものは26例(26%)であり、銭湯、スポーツジムのジェットバス、デイケアの浴室等の水系感染が疑われたものは24例、塵埃感染が疑われるものは2例でした。

レジオネラ症 (legionellosis) は、レジオネラ・ニューモフィラ (*Legionella pneumophila*) を代表とするレジオネラ属菌による細菌感染症です。主な病型として、重症の肺炎を引き起こす「レジオネラ肺炎」と、一過性で自然に改善する「ポンティアック熱」が知られています。国立感染症研究所の報告によると、国内の発生例は一年中見られますが、特に7月、9月に多くなっています。レジオネラ属菌は、本来土壌などの自然環境の中の細菌ですが、冷却塔、給湯系、渦流浴などの人工環境にアメーバを宿主として増殖しています。ヒトからヒトへ感染することはありません。

感染経路は大別して水系と塵埃(粉じん、埃など)からの感染が報告されています。

1 水系感染

・エアロゾル感染

レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾルを吸入することによって感染します。代表的なエアロゾル感染源としては、冷却塔水、加湿器や循環式浴槽などが報告されています。

・吸引・誤嚥

エアロゾル感染以外に、温泉浴槽内や河川で溺れた際に汚染された水を吸引・誤嚥したことによる感染事例が報告されています。

2 塵埃(粉じん、埃など)

レジオネラ属菌が汚染された腐葉土の粉じんを吸い込んだことが原因と推定される感染事例が報告されています。

感染を予防するために、これから利用機会の多くなる超音波振動などの加湿器を使用するときには、毎日水を入れ替えて容器を洗浄しましょう。レジオネラ属菌は60℃では5分間で殺菌されるので、水を加熱して蒸気を発生させるタイプの加湿器は感染源となる可能性は低いとされています。

また、循環式浴槽(追い炊き機能付き風呂・24時間風呂など)を備え付けている場合は、浴槽内に汚れやバイオフィルム(生物膜。細菌で形成される「ぬめり」。)が生じないように定期的に洗浄等を行うなど、取扱説明書に従って維持管理しましょう。

他に、エアロゾルの発生を抑制することも重要です。エアロゾルの発生する可能性のある温水は、次亜塩素酸などの適切な殺菌剤による処理をおこない換水するなどの留意が必要です。エアロゾルの発生する高圧洗浄、粉塵の発生する腐葉土の取り扱いなどにはマスクを着用しましょう。